

博士前期課程

博士前期課程各専攻の概要と教授陣

環境共生システム学専攻

目的・目標

21世紀の産業では、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みが進み、それを担う技術は、より一層、環境や社会への責任を果たすものでなければなりません。環境共生システム学専攻では、環境と社会の高い次元での共生を目指し、応用化学とバイオテクノロジーをベースにした「物質デザイン」、「材料・環境科学」、「生物工学」の3つの専門領域を中心に、教育研究活動を展開し、専門知識の融合力、新規技術の創造力をもつ研究者・技術者を養成します。

アドミッションポリシー

環境共生システム学専攻は、「物質デザイン」「材料・環境科学」「生物工学」の3つの専門領域に高い関心と興味を持ち、既存の専門分野の枠組みを越えて、新しい技術やシステムの創出に挑戦し、技術開発の最前線で活躍できる研究者・技術者を目指す諸君を受け入れます。

カリキュラムポリシー

環境共生システム学専攻では、新たな物質をデザインし、地球環境の保全や人類の繁栄に役立つ実用的なデバイスへと応用する「物質デザイン」、環境・エネルギーという観点から材料／資源を包括的に捉え、技術革新に繋がる研究を目指す「材料・環境科学」、生き物のもつ素晴らしい能力や機能を解明し、実社会で役立つ新技術へと応用する「生物工学」の3つの分野を中心に、カリキュラムを整備しています。

- （1）専門分野の基礎的素養を身につけるため、「物質デザイン系」「材料・環境科学系」「生物工学系」の3つの科目区分の専門講義科目を用意しています。
- （2）関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論1・2」を配置しています。
- （3）「特別演習」「特別研究」において1年次から本格的な研究に取り組み、学位論文を執筆します。

ディプロマポリシー

環境共生システム学専攻では、所定の修了要件を満たすことで下記の能力と資質を備えたものと認め、修士（工学）を授与します。

【専門力】

- （1）環境と社会の共生を根幹においた実践的な技術力を身につけ、持続可能な開発につながる課題発見をすることができる。
- （2）応用化学とバイオテクノロジーの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な研究・開発等を遂行できる。

【人間力】

- （1）科学や技術のもつ環境・社会への責任を自覚した考え方に基づいた自律的・持続的な行動ができる。
- （2）自らの考えを主張しながらも他者の意見を柔軟に取り入れ、対立ではなく協調を目指した議論を深めることができる。

教 授	工学博士	八木田 浩 史	「エネルギー・環境システム特論」ほか
教 授	博士(工学)	伴 雅 人	「バイオマテリアル特論」ほか
教 授	博士(工学)	大 澤 正 久	「量子化学特論」ほか
教 授	博士(理学)	佐 野 健 一	「ナノ・バイオシステム特論」ほか
教 授	博士(工学)	内 田 祐 一	「材料循環工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	白 木 将	「表面物理特論」ほか
教 授	博士(工学)	新 倉 謙 一	「分子組織化学特論」ほか
教 授	博士(工学)	池 添 泰 弘	「物理化学特論」ほか
教 授	博士(工学)	飯 塚 完 司	「電子・光材料学特論」ほか
教 授	博士(理学)	芳 賀 健	「植物分子機能学特論Ⅰ」ほか
准 教 授	博士(工学)	小 池 隆 司	「分子触媒化学特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「English Skill Upgrading Program」ほか
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論1」ほか

機械システム工学専攻

目的・目標

機械システム工学専攻では、「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」など、ものづくりに必要な分野の技術を基軸として、急速に発展する科学技術に対応する力および優れた技術開発を推進できる能力を身につけます。当該専攻に関連する学術研究と専門科目の修得を通して、多様化する社会的要請に柔軟に対応できる専門知識と実践力を備えた開発技術者および研究者を養成します。

アドミッションポリシー

機械システム工学専攻では、多様化する社会の要請に柔軟に対応する、高度な専門能力と実践力を備えた技術者・研究者を養成します。そのための基礎的学力を有し、ものづくりに対するあつい情熱と意欲にあふれた学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

機械システム工学専攻は、ものづくりに必要な各分野の技術を修得し、プロジェクトリーダーとして活躍できる技術者・研究者の養成を目標に、専門知識の獲得と実践力の養成に重点をおいたカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次では、ものづくりに必要な専門分野（「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」）を、体系的に学び、多分野にまたがる高度な専門知識を修得します。
- (2) 1年次の「機械システム工学セミナー」では、研究を遂行するための基礎的なスキルを身につけるとともに、2年次の「特別研究」では、修士論文に取り組み、これを発表する一連の過程において、分析能力、問題解決能力および発表能力を養成します。
- (3) 最新鋭の設備を備えた機械実工学教育センターでの研究装置の製作、あるいは先端材料技術研究センターでの材料分析により、実践的研究開発能力を養成します。

ディプロマポリシー

機械システム工学専攻では、所定の必修科目および選択科目の履修を通じて、次にあげる能力を修得することで修士（工学）を授与します。

【専門力】

下記のいずれかを柱とする実践的技術力を身に付け、広い視野から課題を解決できる。

- (1) 加工学、生産工学など、次世代のものづくりで必要とされる機械の設計・計測・制御、材料評価方法および各種データの処理手法などの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。
- (2) エネルギー変換および計測・制御技術など、環境に調和した省エネ技術や環境保全技術に必要なエネルギー変換、分析評価、制御、センシング、精密測定、データマイニングなどの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。
- (3) ロボット工学など、人間生活や社会を豊かにする人型や医療などの各種ロボットに利用される機械要素、機構設計・製作、機械制御、各種センサによる計測技術などの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。

【人間力】

- (1) 高い倫理観を持ち、何事も自律的にやり抜くことができる。
- (2) 論理的に考えて他者を理解し議論を深めることができる。

教	授	博士(工学)	古 閑 伸 裕	「塑性加工学特論」ほか
教	授	博士(工学)	渡 部 修 一	「新素材プロセス特論」ほか
教	授	博士(工学)	竹 内 貞 雄	「機械材料学特論」ほか
教	授	博士(工学)	丹 澤 祥 晃	「自然エネルギー特論」ほか
教	授	博士(工学)	村 田 泰 彦	「成形加工学特論」ほか
教	授	博士(工学)	中 里 裕 一	「メカトロニクス特論」ほか
教	授	博士(工学)	神 雅 彦	「機械加工学特論」ほか
教	授	博士(工学)	中 野 道 王	「燃焼工学特論」ほか
教	授	博士(工学)	張 曉 友	「制御工学特論」ほか
教	授	博士(工学)	安 原 鋭 幸	「機能性材料特論」ほか
教	授	Dr. Eng	鈴 木 宏 典	「数理モデリング特論」ほか
教	授	博士(工学)	二ノ宮 進 一	「生産工学特論」ほか

教 授	博士(工学)	樋 口 勝	「ロボット機構学特論」ほか
教 授	博士(工学)	浦 川 禎 之	「実用デジタル制御特論」ほか
教 授	博士(工学)	宮 川 豊 美	「ロボットシステム特論」ほか
教 授	博士(工学)	瀧 澤 英 男	「固体力学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	櫛 橋 康 博	「機能ロボティクス特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	田 村 仁	「ロボットビジョン特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	秋 元 俊 成	「医用工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	桑 原 拓 也	「流体工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	石 川 貴一朗	「計測工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	加 藤 史 仁	「微細デバイス技術特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	小 崎 美 勇	「光テクノロジー特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「English Skill Upgrading Program」
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論 1」ほか

電子情報メディア工学専攻

目的・目標

電子情報メディア工学専攻は、電気工学、電子工学、およびデータサイエンスを含む情報メディア工学に関連する技術が、互いに関連しながら発展してきたことを踏まえ、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識・技術をもつ、実践的開発技術者と創造的研究者を養成します。

またこれらの学問分野が、たがいに融合した新たな専門領域である「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」を3本の柱として教育・研究活動を展開します。

アドミッションポリシー

電子情報メディア工学専攻は、「エレクトロニクス」「情報通信技術」および、データサイエンスを含む「マルチメディア」の3つの専門領域に高い関心と興味をもち、その専門領域だけに留まることなく、急速な技術の進歩にも臆することなく挑戦する意欲ある学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

電子情報メディア工学専攻に関する基礎的素養を、ひとつの専門領域にとらわれることなく、関連した境界領域的な科目も学べるように配慮し、各専門領域の講義科目を「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」の3つに分類しています。さらに各専門領域に共通する基本技術、基礎技能、課題発見能力、問題解決能力を身につけ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を育むことを目的に、1年次に必修の演習科目である「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」を設けています。これら演習科目を通じて、知識の有機的な融合と、応用力を養成します。「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、各自の研究を進め、修士論文を作成します。また、関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論1・2」を1年次春学期と秋学期に配置しています。

ディプロマポリシー

電子情報メディア工学専攻は、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識・技術を持ち、世界の技術革新をリードできる専門力と人間力を備えた、実践的開発技術者と創造的研究者を養成します。そこで、授業科目の履修、セミナーへの取り組み、および研究の遂行により、学生が以下の能力を習得したことをもって修士(工学)を授与します。

【専門力】

- (1) 本専攻の柱となる「エレクトロニクス」「情報通信技術」および、データサイエンスを含む「マルチメディア」の3つの専門領域に沿って授業科目を履修し、基礎力と先端の専門力を習得することで、新しい価値を創出する独創的な研究・開発とそのための調査等を遂行できる。
- (2) 1年次に「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」のいずれかを履修し、社会において活用できる実践的な技術力を身につけることで、幅広い視野から課題発見・解決につなげることができる。

【人間力】

- (1) 「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」の

何れかの履修によって、技術者・研究者として高い倫理観をもった自律的な思考で行動することができる。

- (2) 社会・産業の基盤となる電気電子技術、および、それらに立脚して、社会と暮らしへのコンピュータの応用を目指す情報通信と情報メディア技術について、指導教員の下で「特別研究」に取り組み、論理的思考とコミュニケーション能力を身に着けることで、研究開発の成果を論理的に説明し、他者の意見を理解したうえで議論を深めることができる。

教 授	工学博士	石 川 豊	「先端マテリアル特論」ほか
教 授	博士(工学)	青 柳 稔	「電子物性特論」ほか
教 授	博士(工学)	宇賀神 守	「アナログ集積回路特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「情報システム信頼性特論」ほか
教 授	博士(工学)	山 地 秀 美	「進化システム特論」ほか
教 授	博士(理学)	吉 野 秀 明	「情報ネットワーク工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	吉 田 清	「電気電子計測特論」ほか
教 授	博士(情報理工学)	佐 藤 進 也	「情報検索特論」ほか
教 授	博士(学術)	生 駒 哲 一	「ソフトコンピューティング特論」ほか
教 授	博士(工学)	上 野 貴 博	「電気機器制御特論」ほか
教 授	博士(情報学)	平 栗 健 史	「マルチメディア通信特論」ほか
教 授	博士(工学)	高 瀬 浩 史	「無線通信システム工学特論」ほか
教 授		石 原 次 郎	「写真メディア特論」ほか
教 授	博士(情報科学)	新 井 啓 之	「画像認識特論」ほか
教 授	博士(工学)	糸 野 文 洋	「クラウドコンピューティング特論」ほか
教 授	博士(工学)	勝間田 仁	「グループウェア特論」ほか
教 授	博士(工学)	竹 村 暢 康	「電磁波工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	荒 川 俊 也	「生体情報処理特論」ほか
教 授	博士(工学)	呉 本 堯	「脳型情報処理特論」ほか
教 授	博士(工学)	大 宮 望	「ビジネスプロセス特論」ほか
准 教 授	Ph.D.	神 林 靖	「プログラム意味解析特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	松 田 洋	「教育工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	中 村 一 博	「論理回路特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	木 許 雅 則	「適応信号処理特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	木 村 貴 幸	「自律分散システム特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	橋 浦 弘 明	「ソフトウェア設計特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	松 浦 隆 文	「数理最適化特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	伊 藤 暢 彦	「移動体通信システム特論」ほか
准 教 授	博士(先端科学技術)	高 津 洋 貴	「感性情報処理特論」ほか
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論1」ほか

建築デザイン学専攻

目的・目標

建築デザイン学専攻は、建築をさまざまな視点から捉え、よりよい建築空間、生活環境ならびに地域環境を、次世代に伝達することのできる建築家、建築技術者および研究者を養成します。この目的を達成するため、実践的教育プログラムを整備するとともに、各学問分野の科目を幅広く提供します。

アドミッションポリシー

建築デザイン学専攻が求める入学者は、本専攻が掲げる教育方針に共感し、幅広い建築的能力と創造性を備えようと志す意欲にあふれた人です。このため、建築における実践的な学びに対する意欲や行動力を重視します。

カリキュラムポリシー

本専攻が対象とする専門領域は、以下の4領域です。「設計・計画」：空間デザインの視点で建築からインテリア・家具までの設計とその基礎になる研究、あるいはライフスタイルや地域計画の視点でまちづくりに関する研究や実践的活動に取り

組みます。「歴史」：住宅、都市、さらに文化環境の視点から、建築史学およびそれらに基づく保存・再生や復原設計に関する研究やプロジェクトに取り組みます。「構造・材料」：構造力学および構造デザインの視点から、建築物の構造や架構法、ディテール等の技術を研究し、また建築材料の視点から、建築部位や家具の材料性能について研究します。「環境・設備」：環境負荷削減・快適空間創出の視点から、建築・地域および都市の光・水・空気・温熱環境や設備システムについて研究します。

- (1) 1年次に専門の講義科目を数多く設けています。
- (2) 1年次に演習科目「プロジェクト演習」を設け、建築分野における「協働」について、ワークショップ形式をとって実践的にプロジェクトを推進します。空間の提案や設計などを実現する過程で必要となる調査情報の共有や議論、合意形成、検証の技術を身に付けます。
- (3) 一級建築士の受験資格に係る大学院での実務経験のために「インターンシップ科目」を設けています。具体的な建築の設計やプロジェクト等の課題を継続的に体験し、設計および工事監理の実務的な能力を培います。
- (4) 関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論」を1年次に配置しています。
- (5) 「特別研究」「特別研究（修士設計）」において、入学時から指導教員の下で研究・設計に取り組み、修士論文あるいは修士設計を完成させ、発表します。

ディプロマポリシー

本専攻は、以下のような能力を身につけ、必要な授業科目、演習科目および「特別研究」を修得した学生に「修士（工学）」の学位を授与します。

【専門力】

- (1) 知識と技術に裏打ちされた状況把握能力、発想力、構想力、判断力などの柔軟な思考力を発揮できる。
- (2) 特定分野の深い知識と研究力、課題設定・問題解決・立案実行能力、総合的かつ実践的な建築デザイン力を活用できる。

【人間力】

- (1) 建築に携わる技術者・研究者として、よりよい環境の継承を志し、その実現のために自律的・持続的に行動できる。
- (2) さまざまな分野や文化への想像力を以て、他者の立場や多様な価値観を尊重しつつ、誠実かつ真摯に議論できる。

教 授	工学博士	黒 津 高 行	「建築表現の手法」ほか
教 授	博士(工学)	小 川 次 郎	「都市建築の設計」ほか
教 授	博士(工学)	足 立 真	「建築空間の構成システム」ほか
教 授	博士(工学)	三 坂 育 正	「都市環境設計論」ほか
教 授	博士(工学)	那 須 秀 行	「木質構造設計論」ほか
教 授	博士(工学)	西 本 真 一	「組積造建築技術史特論」ほか
教 授	博士(工学)	佐々木 誠	「集合住宅計画論」ほか
教 授	博士(工学)	野 口 祐 子	「福祉生活環境論」ほか
教 授	博士(工学)	吉 野 一	「建築空気環境特論」ほか
教 授	博士(工学)	安 野 彰	「近代の都市と建築」ほか
教 授	博士(工学)	木 下 芳 郎	「施設利用行動モデル論」ほか
教 授	博士(工学)	樋 口 佳 樹	「住まい環境設計論」ほか
准 教 授	博士(工学)	勝 木 祐 仁	「生活環境形成論」ほか
准 教 授	博士(工学)	吉 村 英 孝	「公共空間の設計」ほか
准 教 授	博士(工学)	徐 華	「空間認知論」ほか
准 教 授	博士(工学)	工 藤 瑠 美	「建築材料と人間工学」ほか
准 教 授	博士(工学)	箕 輪 健 一	「シェル構造設計論」ほか
准 教 授	博士(工学)	伊 藤 大 輔	「建築光環境特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	竹 内 宏 俊	「建築の形態とスケール」ほか
助 教	博士(工学)	田 中 章 夫	「耐久性診断特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「English Skill Upgrading Program」
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論1」ほか

博士前期課程専攻別授業科目および単位数

環境共生システム学専攻

学科 目 区 分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
物質 デザ イン	バイオマテリアル特論	2	◎	○	2			教 授 博士（工学） 伴 雅人	
	メディカルエンジニアリング特論	2	◎	○		2		教 授 博士（工学） 伴 雅人	
	量子化学特論	2	◎		2			教 授 博士（工学） 大澤 正久	
	光化学特論	2	◎			2		教 授 博士（工学） 大澤 正久	
	物理化学特論	2	◎		2			教 授 博士（工学） 池添 泰弘	
	物理化学演習	2	◎	○	2			教 授 博士（工学） 池添 泰弘	
	分子触媒化学特論Ⅰ	2	◎			2		准教授 博士（工学） 小池 隆司	
	分子触媒化学特論Ⅱ	2	◎	○		2		准教授 博士（工学） 小池 隆司	
材料・環境科学	エネルギー・環境システム特論	2	◎	○	2			教 授 工学博士 八木田浩史	
	環境学特論	2	◎	○		2		教 授 工学博士 八木田浩史	
	材料循環工学特論	2	◎			2		教 授 博士（工学） 内田 祐一	
	材料循環工学演習	2	◎	○		2		教 授 博士（工学） 内田 祐一	
	電子・光材料科学特論	2	◎			2		教 授 博士（工学） 飯塚 完司	
	電子・光材料科学演習	2	◎			2		教 授 博士（工学） 飯塚 完司	
	表面物理特論	2	◎	○	2			教 授 博士（工学） 白木 將	
	表面分析特論	2	◎	○		2		教 授 博士（工学） 白木 將	
生物工学	ナノ・バイオシステム特論	2	◎		2			教 授 博士（理学） 佐野 健一	
	ナノ・バイオシステム演習	2	◎		2			教 授 博士（理学） 佐野 健一	
	分子組織化学特論	2	◎	○	2			教 授 博士（工学） 新倉 謙一	
	ナノ材料機能特論	2	◎	○		2		教 授 博士（工学） 新倉 謙一	
	植物分子機能学特論Ⅰ	2	◎	○	2			教 授 博士（理学） 芳賀 健	
	植物分子機能学特論Ⅱ	2	◎	○		2		教 授 博士（理学） 芳賀 健	
生物資源工学	タンパク質工学特論	2				2		【休講】	
	資源循環プロセス工学特論	2			2			【休講】	
	材料熱力学特論	2				2		【休講】	
	材料電磁気学特論	2				2		【休講】	
	電子材料科学特論	2				2		【休講】	
機械エネルギーシステム	環境熱工学特論	2			2			【休講】	
	自然エネルギー特論	2				2		【休講】	
	交通現象解析特論	2			2			【休講】	
	交通工学特論	2				2		【休講】	
	機能性材料特論	2			2			【休講】	
	材料プロセス工学特論	2				2		【休講】	
	機能性流体工学特論	2			2			【休講】	
	応用数理工学特論	2				2		【休講】	
	新素材プロセス特論	2				2		【休講】	
演習科目	特別演習Ⅰ	2	◎	◎	2			八木田浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司	
	特別演習Ⅱ	2	◎	◎		2			
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12	八木田浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司	
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2			教 授 工学博士 辻村 泰寛	
	English Skill Upgrading Program	2		○		2		教 授 工学博士 辻村 泰寛	
	応用数学特論 1	2	○		2			教 授 博士（理学） 衛藤 和文	
	応用数学特論 2	2	○			2		教 授 博士（理学） 衛藤 和文	

《修了要件》

「特別演習Ⅰ・Ⅱ」（4単位）と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（8単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外に授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

機械システム工学専攻

学科 目 区 分	授業科目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
生産工学 加工学	塑性加工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 古閑 伸裕
	機械材料学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 竹内 貞雄
	成形加工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 村田 泰彦
	生産工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 二ノ宮進一
	機能性材料特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 安原 鋭幸
	機械加工学特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 神 雅彦
	固体力学特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 瀧澤 英男
	新素材プロセス特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 渡部 修一
エネルギー変換工学 計測制御工学	自然エネルギー特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 丹澤 祥晃
	燃焼工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 中野 道王
	制御工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 張 暁友
	流体工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 桑原 拓也
	計測工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 石川貴一朗
	光テクノロジー特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 小崎 美勇
	環境熱工学特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 丹澤 祥晃
	応用数理工学特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 桑原 拓也
メカトロニクス ロボット工学	微細デバイス技術特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 加藤 史仁
	ロボット機構学特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 樋口 勝
	実用デジタル制御特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 浦川 禎之
	機能ロボティクス特論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 櫛橋 康博
	人間ロボット共生特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 中里 裕一
	数理モデリング特論	2	◎	○		2			教 授 Dr. Eng. 鈴木 宏典
	ロボットシステム特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 宮川 豊美
	ロボットビジョン特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 田村 仁
演習科目	医用工学特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 秋元 俊成
	機械システム工学セミナーⅠ	2	◎	◎	2				古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、 神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、 瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、 樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、 桑原 拓也、石川貴一朗、加藤 史仁、小崎 美勇、 櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
研究科目	機械システム工学セミナーⅡ	2	◎	◎		2			古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、 神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、 瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、 樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、 桑原 拓也、石川貴一朗、加藤 史仁、小崎 美勇、 櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、 神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、 瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、 樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、 桑原 拓也、石川貴一朗、加藤 史仁、小崎 美勇、 櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、 神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、 瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、 樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、 桑原 拓也、石川貴一朗、加藤 史仁、小崎 美勇、 櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
共通科目	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論 1	2	○		2				教 授 博士(理学) 衛藤 和文
休講	応用数学特論 2	2	○			2			教 授 博士(理学) 衛藤 和文
	CAD/CAM工学特論	2				2			【休講】
	マイクロ加工学特論	2				2			【休講】
	電子材料学特論	2				2			【休講】

《修了要件》

「機械システム工学セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(8単位)を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目(演習、特別研究を除く)は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

電子情報メディア工学専攻

学科 目 区 分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
エレクトロニクス	先端マテリアル特論	2	◎		2				教授 工学博士 石川 豊
	デバイスプロセス特論	2	◎			2			教授 工学博士 石川 豊
	電子物性特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 青柳 稔
	半導体物性特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 青柳 稔
	電子制御工学特論	2			2				【休講】
	情報制御システム特論	2				2			【休講】
	アナログ集積回路特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 宇賀神 守
	アナログ集積回路応用特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 宇賀神 守
	電気電子計測特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 吉田 清
	電気接点特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 吉田 清
	電気機器制御特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 吉田 清
	電気エネルギー工学特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 上野 貴博
	適応信号処理特論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 木村 雅則
	ビジネスプロセス特論	2	○	○	2				教授 博士(工学) 大宮 望
	経営情報システム特論	2	○	○	2				教授 博士(工学) 大宮 望
情報通信技術	ソフトウェア設計特論	2	◎		2				准教授 博士(工学) 橋浦 弘明
	数理最適化特論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 松浦 隆文
	情報システム信頼性特論	2	○	○		2			教授 工学博士 辻村 泰寛
	計算知能工学特論	2	○		2				教授 工学博士 辻村 泰寛
	情報ネットワーク工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(理学) 吉野 秀明
	情報システム性能評価特論	2	◎	○		2			教授 博士(理学) 吉野 秀明
	ソフトコンピューティング特論	2	○		2				教授 博士(学術) 生駒 哲一
	最適フィルタ状態推定特論	2	○			2			教授 博士(学術) 生駒 哲一
	プログラム意味解析特論	2	◎	○		2			准教授 Ph.D 神林 靖
	エージェント技術特論	2	◎	○	2				准教授 Ph.D 神林 靖
	クラウドコンピューティング特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 桑野 文洋
	高信頼ソフトウェア開発特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 桑野 文洋
	無線通信システム工学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 高瀬 浩史
	ユビキタスネットワーク特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 高瀬 浩史
	論理回路特論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 中村 一博
マルチメディア	グループウェア特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 勝間田 仁
	電磁波工学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 竹村 暢彦
	移動体通信システム特論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 伊藤 暢彦
	感性情報処理特論	2	○	○		2			准教授 博士(先端科学技術) 高津 洋貴
	進化システム特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 山地 秀美
	コンピュータビジョン特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 山地 秀美
	マルチメディア通信特論	2	◎	○	2				教授 博士(情報学) 平栗 健史
	アンテナ工学特論	2	○			2			教授 博士(情報学) 平栗 健史
	教育工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 松田 洋
	写真メディア特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 石原 次郎
	情報検索特論	2	◎		2				教授 博士(情報理工学) 佐藤 進也
	Web情報処理特論	2	◎			2			教授 博士(情報理工学) 佐藤 進也
	画像認識特論	2	◎	○	2				教授 博士(情報科学) 新井 啓之
	映像メディア解析特論	2	○	○		2			教授 博士(情報科学) 新井 啓之
	自律分散システム特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 木村 貴幸
演習科目	生体情報処理特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 荒川 俊也
	統計的データ解析特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 荒川 俊也
	脳型情報処理特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 荒川 俊也
	ヒューマンマシンインタラクション特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 呉本 堯
	次世代デバイス応用セミナーⅠ	2	◎	◎	2				石川 豊、青柳 稔、上野 貴博、新井 啓之、
	次世代デバイス応用セミナーⅡ	2	◎	◎		2			神林 靖、吉田 清、桑野 文洋、木村 貴幸、
研究科目	次世代情報技術セミナーⅠ	2	◎	◎	2				松浦 隆文、辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、生駒 哲一、
	次世代情報技術セミナーⅡ	2	◎	◎		2			勝間田 仁、竹村 暢彦、木村 貴幸、橋浦 弘明、
	次世代メディア開発セミナーⅠ	2	◎	◎	2				伊藤 暢彦、高瀬 浩史、平栗 健史、松田 洋、
	次世代メディア開発セミナーⅡ	2	◎	◎		2			中村 一博、佐藤 進也、石原 次郎、大宮 望、
									荒川 俊也、呉本 堯、
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		石川 豊、辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		青柳 稔、上野 貴博、新井 啓之、神林 靖、
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				生駒 哲一、橋浦 弘明、
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			辻村 泰寛、
	応用数学特論1	2	○		2				辻村 泰寛、
	応用数学特論2	2	○			2			衛藤 和文、

《修了要件》

「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)か「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)若しくは、「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(8単位)を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目(演習、特別研究を除く)は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

建築デザイン学専攻

学科目 区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
設計・計画	都市建築の設計	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 小川 次郎
	建築空間の構成システム	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 足立 真
	集合住宅計画論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 佐々木 誠
	地域設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 佐々木 誠
	福祉生活環境論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 野口 祐子
	福祉のまちづくり特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 野口 祐子
	施設利用行動モデル論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 木下 芳郎
	施設規模・配置設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 木下 芳郎
	住まいの民俗文化	2	◎	○	2				【休講】
	祭祀と儀礼の建築空間	2	◎	○		2			【休講】
	生活環境形成論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 勝木 祐仁
	福祉空間設計論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 勝木 祐仁
	公共空間の設計	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 吉村 英孝
	空間認知論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 徐 華
	街路空間設計論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 徐 華
建築の形態とスケール	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 竹内 宏俊	
歴史	建築設計と構法	2	◎	○	2				教 授 工学博士 黒津 高行
	建築表現の手法	2	◎	○		2			教 授 工学博士 黒津 高行
	組積造建築技術史特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 西本 真一
	建造技術史と修復設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 西本 真一
	近代の都市と建築	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 安野 彰
	住宅史特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 安野 彰
構造・材料	木質構造設計論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 那須 秀行
	鋼構造特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 那須 秀行
	シェル構造設計論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 箕輪 健一
	空間構造特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 箕輪 健一
	建築材料と人間工学	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 工藤 瑠美
	建築設計と材料性能	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 工藤 瑠美
	耐久性診断特論	2	◎	○	2				助 教 博士（工学） 田中 章夫
	コンクリート材料設計論	2	◎	○		2			助 教 博士（工学） 田中 章夫
環境・設備	都市環境設計論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 三坂 育正
	暑熱適応の空間計画特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 三坂 育正
	建築空気環境特論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 吉野 一
	建築環境設計論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 吉野 一
	住まい環境設計論	2	◎	○	2				教 授 博士（工学） 樋口 佳樹
	建築熱環境特論	2	◎	○		2			教 授 博士（工学） 樋口 佳樹
	昼光照明設計論	2	◎	○	2				准教授 博士（工学） 伊藤 大輔
	建築光環境特論	2	◎	○		2			准教授 博士（工学） 伊藤 大輔
演習科目	プロジェクト演習Ⅰ	2	◎	◎	2				黒津 高行、小川 次郎、足立 真、三坂 育正、 那須 秀行、西本 真一、佐々木 誠、野口 祐子、 吉野 一、安野 彰、木下 芳郎、樋口 佳樹、 勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、 箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫
	プロジェクト演習Ⅱ	2	◎	◎		2			小川 次郎
	建築設計インターンシップ	4	◎	◎	4				小川 次郎
	建築設計スタジオⅠ	2	◎	◎	2				小川 次郎、足立 真、樋口 佳樹、吉村 英孝、 徐 華、竹内 宏俊
	建築設計スタジオⅡ	2	◎	◎		2			小川 次郎、足立 真、樋口 佳樹、吉村 英孝、 徐 華、竹内 宏俊
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		黒津 高行、小川 次郎、足立 真、三坂 育正、 那須 秀行、西本 真一、佐々木 誠、野口 祐子、 吉野 一、安野 彰、木下 芳郎、樋口 佳樹、 勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、 箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、黒津 高行、西本 真一、 佐々木 誠、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、 竹内 宏俊
	特別研究Ⅰ（修士設計）	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、黒津 高行、西本 真一、 佐々木 誠、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、 竹内 宏俊
	特別研究Ⅱ（修士設計）	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、黒津 高行、西本 真一、 佐々木 誠、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、 竹内 宏俊
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論1	2	○		2				教 授 博士（理学） 衛藤 和文
	応用数学特論2	2	○			2			教 授 博士（理学） 衛藤 和文

《修了要件》

「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」（4単位）か「建築設計スタジオⅠ・Ⅱ」（4単位）若しくは、「建築設計インターンシップ」（4単位）のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」8単位または「特別研究（修士設計）」8単位を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

インターンシップ関連科目

日本工業大学 工学研究科 博士前期課程 建築デザイン学専攻 カリキュラム表

本学の大学院建築デザイン学専攻は、公益財団法人 建築技術教育普及センターより、各専門領域において所定の単位数「15単位以上（インターンシップ4単位以上）」を修得することで、実務経験年数1年とみなすことが認められています。インターンシップの単位数は4単位以上、インターンシップ関連科目（演習・実験・実習）は8単位以下、インターンシップ関連科目（講義）は8単位以下とします。

科 目 区 分		新 科 目 名	単位数	開講時期		担 当 者	専門領域		
				春	秋		意匠	構造	設備
ツブ インターンシ		建 築 設 計 イン タ ー ン シ ッ プ	4	○	○	小川	○	○	○
		建 築 設 計 ス タ ジ オ Ⅰ	2	○		小川、足立、樋口、吉村、徐、竹内	○	○	○
		建 築 設 計 ス タ ジ オ Ⅱ	2		○	小川、足立、樋口、吉村、徐、竹内	○	○	○
インターンシップ関連科目	演習・実験・実習	特 別 研 究（ 修 士 設 計 ） Ⅰ	4	○		小川、足立、黒津、西本、佐々木、樋口、吉村、徐、竹内	○		
		特 別 研 究（ 修 士 設 計 ） Ⅱ	4		○	小川、足立、黒津、西本、佐々木、樋口、吉村、徐、竹内	○		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 Ⅰ	2	○		黒津、小川、足立、三坂、那須、西本、佐々木、野口(祐)、吉野、安野、木下、樋口、勝木、吉村、徐、工藤、箕輪、伊藤、竹内、田中(章)	○	○	○
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 Ⅱ	2		○	黒津、小川、足立、三坂、那須、西本、佐々木、野口(祐)、吉野、安野、木下、樋口、勝木、吉村、徐、工藤、箕輪、伊藤、竹内、田中(章)	○	○	○
	講義	都 市 建 築 の 設 計	2	○		小川	○		
		建 築 空 間 の 構 成 シ ス テ ム	2		○	足立	○		
		地 域 設 計 論	2		○	佐々木	○		○
		施 設 規 模 ・ 配 置 設 計 論	2		○	木下	○		
		福 祉 空 間 設 計 論	2		○	勝木	○		○
		公 共 空 間 の 設 計	2		○	吉村	○		
		街 路 空 間 設 計 論	2		○	徐	○		
		建 築 設 計 と 構 法	2	○		黒津	○	○	○
		建 造 技 術 史 と 修 復 設 計 論	2		○	西本	○	○	○
		木 質 構 造 設 計 論	2	○		那須		○	
		シ ェ ル 構 造 設 計 論	2	○		箕輪		○	
		コ ン ク リ ー ト 材 料 設 計 論	2		○	田中章夫		○	
		建 築 設 計 と 材 料 性 能	2		○	工藤		○	○
		建 築 環 境 設 計 論	2		○	吉野		○	○
		住 ま い 環 境 設 計 論	2	○		樋口		○	○
		昼 光 照 明 設 計 論	2	○		伊藤			○

修士論文審査手続要領

1. 修士論文審査申請の手続

(1) 学生の手続

修士論文の審査を受ける学生は、**指定期日**までに「修士論文審査申請書」「修士論文要旨（和文と英文）」（いずれも教務課に用意）を作成し、修士論文（審査稿、部数は指導教授が指示）と共に指導教授に提出する。

★修士論文要旨の和文は所定用紙に800字程度でまとめ、英文は所定用紙に500語程度でまとめる。

★修士論文は審査用のもので、審査の過程で補訂が加えられる。仮とじ、ファイル等によって散逸しないように注意する。

後に所定の補訂をして、清書しなければならない。

★各手続書類のフォーマットは、MS-Word 形式。

(2) 指導教授の手続

指導教授は学生が提出した修士論文審査申請書、修士論文要旨、修士論文に目を通し、「修士論文審査委員会の構成申請書」を作成する。その後、修士論文審査申請書、修士論文要旨、修士論文審査委員会の構成申請書を各専攻長に提出する。専攻長は提出された書類を閲覧し、完備であることを確認の上、**教務課に提出**する。

★修士の学位論文の審査委員会は、指導教授を含む、当該論文の分野に関連ある大学院担当の教授又は准教授2名以上とし、主査は指導教授とする。

＜修士論文審査申請に必要な書類＞

「修士論文審査申請書」（学生が作成）

修士

年 月 日 提出

論文審査申請書

日本工業大学大学院工学研究科
研究科委員会委員長 殿

専攻名 _____ 専攻
学籍番号 _____
氏 名 _____ 印

このたび日本工業大学学位規程第6条の規定により、下記の修士の学位請求論文を提出し、論文審査の申請をいたします。

記

論文題目：
指導教授：

指導教授 _____ 印
専攻長 _____ 印

【備 考】
本論文に関し、つぎのように論文発表を（予定）しています。

誌名、書名等：
学（協）会名：
発表年月日：
論文題目：
単著・共著の別：
共 著 者 名：

「修士論文要旨（和文）」（学生が作成）

修士論文の要旨（和文）

修士

論文題目 _____

専攻名 _____ 学籍番号 _____ 氏 名 _____

_____ 専攻 _____ 番 _____

【要旨】（MS明細・12pt・1000字程度） |

「修士論文要旨（英文）」（学生が作成）

[修 士]		
Abstract of master's thesis		
Title _____		
Major _____	Student ID _____	Full Name _____
_____ major _____		
[Abstract] (Times New Roman・12pt・app. 500 words)		

「修士論文審査委員会の構成申請書」（指導教授が作成）

[修 士]	
年 月 日 提出	
論文審査委員会の構成申請書	
日本工業大学大学院工学研究科 研究科委員会委員長 殿	
専攻長 _____	
氏 名 _____ 印	
修士の論文審査委員会を下記のとおり構成したいので申請します。	
記	
審査対象となる学位請求論文	
題 目 _____	
著 者 _____	
審査委員会	
主 査 _____	
寄 査 委 員 _____	
寄 査 委 員 _____	
寄 査 委 員 _____	
備 考	
本学研究科委員会委員以外の審査委員については、空白部に現職、略歴等を記入してください。	

2. 修士論文の審査、審査結果の報告

修士論文審査委員会は修士論文の審査を行い、その審査結果については指導教授が「修士論文審査報告書および最終試験報告書」を作成し、各専攻長に提出する。

専攻長は閲覧の上、修了判定を行う大学院研究科委員会の2日前までに、教務課に一括して提出しなければならない。

〈審査結果報告に必要な書類〉

「修士論文審査報告書および最終試験報告書」
(指導教授が作成)

[修 士]			
論文審査報告書 および最終試験報告書			
年 月 日			
審査委員			
主 査 _____		印	
審査委員 _____		印	
審査委員 _____		印	
専 攻 名		氏 名	
学 籍 番 号			
論 文 題 目			
学 位 論 文 審 査 報 告	※ 判 定	合 格	不 合 格
審 査 要 旨 (MS明朝・10.5P・200文字程度)			
最 終 試 験 報 告	※ 判 定	合 格	不 合 格
結 果 の 要 旨			
1. 論文を中心とした科目試験（特別研究及び演習科目を含む） (MS明朝・10.5P・60文字程度)			
2. 外 国 語 (MS明朝・10.5P・60文字程度)			
※判定欄の合格、不合格のいずれかをインクで記入して下さい。			
授 業 科 目 取 得 単 位 数		単 位	
(特別研究及び演習科目を含む)			
記入不要			

3. 修士論文の提出

(1) 修士論文（本論文）の提出

審査稿に審査過程での補訂を加えて、提出用の修士論文（本論文）を作成し、1部を成績発表の2日後までに指導教授を経て教務課に提出する。

★論文題目、著者（専攻、番号、氏名）、指導教授（資格、氏名）を楷書体で明記する。

日本工業大学学位論文審査基準

【修士論文】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 論文の構成、論述が明確で、論理的な展開がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 論文で使用する図表、文章表現、文献の引用が適切に行われており、整った論文となっている。
【論文作成能力】
6. 研究内容に独創性がみられる。
【独創性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。

【修士設計】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 設計主旨の構成、論述が明確で、論理的な展開がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 設計の方法が具体的かつ明確であり、内容が設計図書内に適切に表現されている。
【設計能力】
6. 研究内容に独創性がみられる。
【独創性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。